

茨中・茨高にはたくさんの「きっかけ」という種がある

S. I.

早稲田大学 文化構想学部 文化構想学科 進学

水戸市立 笠原小学校 卒業

茨中・茨高の魅力のひとつは、自らの目で見えて自ら考える、知的好奇心が刺激される創造的な授業の数々です。たとえば、中学の生物や化学では実験や解剖を行い、レポートを作成する体験型の授業が何度もあります。結果的に文系に進んだ自分にとっても、それらの経験は高校で学んだ生物基礎や化学基礎の理解を深めるうえでとても重要なものだったと思います。また、中学3年・高校1年の2年間英語の授業内で行ったオンライン英会話は、後に「英検準1級」に合格することができた大きな要因のひとつでした。そこで培った基礎的な会話力と、本番前に先生が何度も個別にしてくださった指導のおかげで、2次試験のスピーキングにも対応することができました。英検の資格は、大学受験でも文理を問わず出願の際の選択肢を広げる、頼れる武器になります。高校1年時には更に、1年間かけて自分の興味がある分野を調べたうえで年度末にプレゼンを行う、「探究授業」と呼ばれる時間が設けられています。私は日本における難民の受け入れについて調べましたが、それを通してアラブ地域の文化に興味を持ったことが、大学で学ぶ第二外国語でアラビア語を選択する大きなきっかけになりました。好奇心を満たしつつ深い教養を得られる非常に魅力的な授業のひとつです。いずれの授業からも、教科書をただ読むだけでは身に付かない、地に足のついた一生ものの知識を得ることができたと感じています。

授業以外の活動からも、決して色褪せることのない貴重な経験を得ることができました。中学の体育祭では3年間、自チームの看板や応援旗の作成を担当するディスプレイ系の学年チーフを務めました。仲間と協力してよりよいものを作り上げていく経験は何にも代えがたいものでした。高校1年生のときに所属していた生徒会では、憧れの先輩方や頼れる仲間と多くの時間を過ごし、校内でのコンタクトレンズケース回収等のエコ活動に向けての企画や、生徒会誌の編纂などに携わりました。自らの仕事の成果が出る喜びを感じられただけでなく、素晴らしい先輩方から学習や進路についてのアドバイスをしていただくなど、非常に充実した大切な1年間でした。また、高校2・3年では文化祭の運営の中心である執行部委員会に所属し、文化祭実行委員長を経験しました。クラス企画や有志団体企画、フォーク部のバンド演奏と掛け持ちをしながら、予算案や企画書の作成、スケジュール調整、コロナ禍に伴う感染症対策など山積みの課題と闘うことは想像以上に大変で、目が回るような日々でした。それでも、仕事熱心で機転の利く執行部の仲間たち一人一人に支えられて最後まで走りきることができました。生涯消えることのない鮮やかな思い出です。先輩方から受け継いだ「茨祭」のバトンを引き継ぐことができた経験は、私を人間として大きく成長させてくれたと思っています。

茨中・茨高では、通常授業や行事以外でも一人一人の興味関心を育てていけるような場面がたくさんあります。特に中学3年から高校2年が毎年参加する「職業教育講演会」では、様々な分野で活躍されている講師の方々の特別授業を受けることができます。自分で受けたい授業を選択できるので興味のある分野への理解が深まるうえ、普段触れられない職業についても学べることで視野が大きく広がります。私自身も、何気なく選んだ広告代理店の方の授業に刺激を受けたことが、広告に興味を持つきっかけになりました。高1・高2時に茨高チームの一員として参加させていただいた「科学の甲子園」では、地学を担当してその奥深さと面白さに触れました。その経験は高2進級時の科目選択の際の指針となりました。また、現代文の授業内で短歌を創作し学外のコンクールに応募するという活動を通して賞をいただけたことは、現代短歌について学びたいと思う大きなきっかけであり、人生の転換点となりました。このような学校生活以外の活動に関しても先生方が積極的に紹介しサポートしてくださる恵まれた環境は、茨中・茨高に入ったからこそ得られたものだと思います。

大学進学後は、サブカルチャーとしての現代短歌を中心に言葉について広く学び、将来的には広告に関係する仕事に携わりたいと考えています。また、大学祭の運営に関わる、海外留学制度を利用するなど、積極的に目の前の挑戦に飛び込んでいきたいです。茨中・茨高で得た、たくさんのきっかけという種。それを大切に育て、いつか美しい花を咲かせるために、これからも努力を重ねていきます。